

NOE NEWS LETTER

Division of Next generation Open Education promotion

2026/03



学内外向け講演会 「他大学と連携した高度ICT活用教育の推進」開催報告

2026年3月9日(月)14:00~16:00に、オンライン(Zoom)にて学内外向け講演会「他大学と連携した高度ICT活用教育の推進」が開催されました。最初に、当NOE部門の部門長である岡田義広教授より当部門の近況報告が行われ、続いて同教授よりMOOCの取組について報告がありました。その後、当部門のポータルサイトについての紹介が行われました。

続いて、14:50からは「XR等ICT活用およびメタバース活用事例の紹介」が行われ、4つの活用事例が紹介されました。まず、医学研究院の藤淵俊王教授ならびに荒川弘之准教授より、放射線診療に関連した演習における活用事例をご紹介いただきました。次に、人文科学研究院の今井宏昌准教授より、西洋史学における活用事例の報告がありました。続いて、総合理工学研究院の光原昌寿教授より、九州大学工学部と九州・沖縄9高专連携教育プログラムにおけるメタバース活用の取組について紹介がありました。

最後に、当部門の岡田義広教授より、立命館アジア太平洋大学(APU)との人材育成連携における活用事例が報告されました。本講演会には学内外から60名の応募があり、参加者は約40名でした。



WORKSHOP ワークショップ開催報告

■ 360°VR動画教材作成ワークショップ

2026年3月6日(金)14:00~16:00にNOE部門会議室において、NOE部門長が講師となり、本ワークショップを開催しました。360°VR動画の仕組みと機材の解説、撮影後の試聴やアップロードして公開する手順、VRゴーグルを使った視聴方法などを解説いたしました。アンケートには「360°動画を自分で撮影して、それをVRゴーグルで見れる機会は中々ないので体験できて良かった」との回答が寄せられました。悪天候の中にもかかわらず、当日は5名の方にご参加いただきました。

配布資料▶ <https://noe.icer.kyushu-u.ac.jp/ws2603/>

■ ビデオ機材利用者向けワークショップ

2026年3月6日(金)10:00~12:00にNOE部門会議室において、NOE部門スタッフが講師となり、本ワークショップを開催しました。講義・講習会などの録画や撮影、機材の設定や配線・分配、ソフトウェアの利用から実際の配信までの説明を行いました。アンケートには「少人数で触りながら覚えてよかった。ビデオ機材の使用について、配線などを可視化した形で学習できたことが、とても貴重でした」との回答が寄せられました。悪天候の中にもかかわらず、当日は4名の方にご参加いただきました。

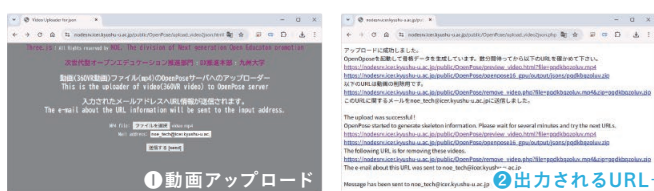
配布資料▶ <https://noe.icer.kyushu-u.ac.jp/wsv2603/>



提供開始 OpenPoseサーバの運用

NOE部門では、手元のPCにインストールすることなくOpenPose（オープンポーズ）を利用するWebサービスを提供しております。OpenPoseは、カーネギーメロン大学が開発した、画像や動画から人間の身体、顔、手のキーポイント（関節点）をリアルタイムで高精度に検出し骨格（ポーズ）情報を可視化するソフトウェアです。複数人の同時解析も可能で、動画のモーションキャプチャ、姿勢推定などに広く利用されております。非営利目的で自由に利用することができます。

OpenPoseの詳細は、右下のGitHubページ（英語）をご覧ください。以下のWebページから、動画をアップロードすると



① 動画アップロード

② 出力されるURL

JSON形式の骨格情報ファイルがフレーム毎に生成されます。全フレームについてZIP圧縮されたファイルをダウンロードできます。以下の図のように、動画をアップロード後に出力されるURLにアクセスすることで、元の動画と骨格情報が付加された動画を視聴することができます。是非、ご活用下さい。



元動画

骨格情報が付加された動画

③ 骨格情報を動画で確認

アップロードURL ▶ https://nodesrv.icer.kyushu-u.ac.jp/public/OpenPose/upload_video2json.html

GitHub(英語) ▶ <https://github.com/cmu-perceptual-computing-lab/openpose>

機材紹介 周囲撮影用3Dスキャナー

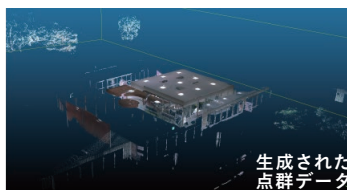


Leica BLK360

今回は、周囲撮影用3Dスキャナーを紹介します。こちらのスキャナーは、360°レーザースキャニングと高解像度の全天球写真を同時に取得できる点が大きな特徴です。スキャン作業は、iPadにインストールした専用アプリを用いて行います。取得したレーザードータには、同時に撮影された全天球写真の色情報が自動的に重ね合わされるため、実空間の形状だけでなく、質感や現場の状況を視覚的に把握しやすいカラー点群を生成します。取得したデータは、スキャン完了後にPCへ転送

し、専用ソフトウェア上で点群として活用することができます。この際、点群データだけでなく、スキャン位置ごとに取得された全天球写真を個別に取り出すことも可能です。

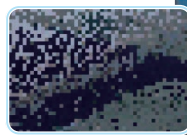
そこから3Dモデルを作ったり、文化財・遺構・建築物をデジタルデータとして残しておいたり、いろいろな使い方が広がります。実際の空間を立体的に見ながら考えられるので、対象をより身近に感じつつ、分析や考察を行うための基盤として役立てることが可能です。



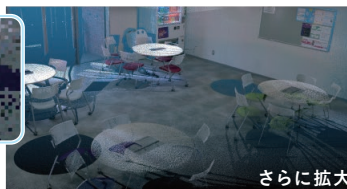
生成された点群データ



拡大



手前テーブルをさらに拡大カラーの点群が確認できる



さらに拡大



点群から作成したモデル

BLK360 操作マニュアル ▶ https://noe.icer.kyushu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2024/10/BLK360_UserManual20240424.pdf

🌐 <https://noe.icer.kyushu-u.ac.jp/>

✉ noe_tech@icer.kyushu-u.ac.jp

📄 バックナンバーを公開しています

<https://noe.icer.kyushu-u.ac.jp/pr/>



九州大学 データ駆動イノベーション推進本部

Division of Next generation Open Education promotion
次世代型オープンエデュケーション推進部門